

い いた たて 村 裁 縫 教 室



平成29年度

飯館村
福島市御倉邸にて

まていな手仕事 生きがいがづくり事業

一般財団法人飯館まてい文化事業団・まていな手仕事の会



はじめに

私たちが飯舘村のお母さん達と手仕事を始めて4年が経ちました。ふるさとの汚染により村を離れざるを得なかった女性達が、心から楽しめ、集まれる場所を作りたいという想いから始まりました。手仕事をするみなさんはいつも明るく、集まって笑い合う姿は村での暮らしを感じさせます。

創作意欲に溢れ、毎回様々な手仕事にチャレンジする姿を目の当たりにすると、単なる手仕事にとどまらず、アート芸術の領域に達するものづくりとなるまで応援したいと思えてきます。

「1人でやっても続かない、楽しくない」「皆で集まるからこそ力が出てくるし、笑うことができる」

そんな場を作り、提供することが大きな役割でもあるのではないかと、この事業を通して感じたことです。各回の手仕事に参加するお母さん達の姿を通してエネルギーを感じていただけたら幸いです。

飯舘までい文化事業団



いいたて村 裁縫教室

カバン作り

2017年5月26日（金）御倉邸

第一回目は、木戸三智子先生によるカバン作りを行いました。木綿やデニムの生地にポケットも付けて、使いやすくしました。毎回恒例の「どの生地にする？」というやりとりが始まり、好きな布地を選びます。「たてとよこ、どっち向きにする？」「紐は何色が良いかな」と会話を楽しみながらも、ちゃんと手を動かします。普段からお裁縫をするお母さんたちなので、予定よりも早く仕上がりました。こちらは秋に行われる「いいたて村文化祭」にて、ファッションショーでお披露目します。今からショーが楽しみです。

みんなの声

スタッフの声

参加するお母さんたちの会への積極性が変化してきたように思います。先生の説明や指示をただ待つのではなく、質問をしながら進めて、製作スピードがさらにアップした気がします。

参加者の声

バックは個人的にも作っているので分かりやすかった。裏地に使う素材や取手がしっかりしていて、勉強になった。

今日のおやつ



講師：木戸 三智子 先生

いいたて村 裁縫教室



いいたて村 裁縫教室



竹細工づくり in 茨城

2017年6月15日(木)茨城県

今日の裁縫科はちょっと早起きです。朝8時に福島を出発し、350km離れた茨城県・行方市へ向かいます。昨年竹カゴ作りを教えてくれた職人さんの工房が、今回の教室です。朝から一同ワクワク。まずは工房、原料を切り出す竹林の見学へ。様々な理由で技術の継承が難しくなっている状況でも、先生は「竹細工の伝統を守りたい」と語ってくれました。そして、竹のコースターづくり。「今日は簡単」と先生は笑顔ですが、集中しないとすぐ間違えるので作業に没頭しました。刈り取ったばかりの竹は青々とし、それぞれに美しいコースターが完成しました。



スタッフの声

2年前、福島のマルシェで先生に出会いました。凛とした佇まいの作品と、弾けるような先生的笑顔を見て思わず「教えてください」とお願い。そこから飯舘村のお母さんたちにおつなぎし、竹細工作りの場が実現しました。

参加者の声

竹の編み方が難しかったけれど、分かればスムーズでした。余った材料をもらって、家でも作ってみます。

今日のお昼は、海の幸



講師：勢司 恵美 先生

いいたて村 裁縫教室





洋服づくり

2017年7月21日（金）ふれ愛館

今日は木戸先生による洋服づくりを行いました。普段でも着やすいワンピースの形で、みんなでお揃いです。まず色とりどりの生地から一人ひとり好きなものを選びます。そして型紙に沿って印をつけ、生地を切ってミシンで塗っていきます。夏の暑い日のアイロンがけは、ちょっとこたえますね…。

これまでの裁縫科の中でも大きめの製作物でしたが、協力し合って完成です。出来上がったワンピースを着てみるとお母さんたち一人ひとりの個性が出ていますね。



みんなの声

スタッフの声

文化祭で着用するワンピース、同じ型紙で作っているのになぜか一人ひとりの個性を感じられる仕上がりに！皆さん普段使いもできるモノを何着か作ったようです。

参加者の声

文化祭がとても楽しみ。今から下に何を着ようか迷っています。

講師：木戸 三智子 先生





いいたて村 裁縫教室



陶芸体験

2017年9月15日(金) 御倉邸

二本松市在住の陶芸家さんを講師に迎え、食器や器づくりにチャレンジです。始めに握りこぶしほどの粘土をもらい「作りたいものを自由に作りましょう」との説明。早速、「お茶うけ用のお菓子入れが欲しかったの」「おかずを乗せる大皿がいい」「小さな輪挿しも可愛い」など、続々とアイデアが浮かびます。中には現代アートのような大作に挑む人もいましたよ。意外に力が要る陶芸は、乾燥しないように濡れぞうきん使ったり工夫して進めました。



スタッフの声

普段はお裁縫が多い本科ですが、様々なものを生み出す創作意欲をパワーアップするために陶芸の場を用意しました。お母さんたちのものづくりのセンスもアップしたように思います。

参加者の声

粘土を同じ厚さに広げていくのが難しかった。ちょっとフニャフニャしたりもしたけど、それも味ということでよしとします。

今日のおやつ

講師：庄司 人志先生(琴星釜)

いいたて村 裁縫教室





いいたて村 裁縫教室

漆のお箸づくり

2017年11月17日（金）御倉邸

昨年、蒔絵のプローチづくりを教えてくれた漆作家の et craft さん、今年は蒔絵でお箸に絵付けをしました。漆を使った技法の1つである蒔絵は、絵の具のように多彩な色があり、絵柄を自由に作成することができます。

漆は厚く塗ると乾かした時にぼつぼつしてしまうので、「漆をゆっくり箸にのせるのがコツ」。先生の作るお手本をジッと見つけ「うーん、どんな模様でしょう」と悩みつつ、作り始めるとススとダイナミックな模様を描きました。

スタッフの声

お母さんたちが大胆な絵柄をつくっていて驚きました。あまりむずかしく考えず、好きなように作るお母さんたちが、私たちよりずっとチャレンジ精神があるなと思いました。

参加者の声

薄く塗るのは簡単ではなかったけれど、皆の作品を眺めると、模様や色使いがそれぞれ個性的でおもしろかった。

今日のおやつ



講師：et craft

いいたて村 裁縫教室



いいたて村 裁縫教室

お正月の干支飾り

2017年12月8日(金)ふれ愛館

来年の戌年にちなんで干支飾りの製作をしました。使わなくなった着物の帯をリユースした、お正月にぴったりなお飾りです。まず型紙を切り取り、そこにアイロンで生地を貼付け、その作業をパーツごとに繰り返します。今回は型紙に忠実に、順番もしっかり守らないといけない作品。だから途中 ちょっとだけ根を上げそうになりながらも、製作の後半には「犬はかわいいね～」と作品に癒されつつ、完成できました。

この作り方は一度覚えれば色々な模様が作れるため、「今度は自分が作りたいものを作ろう」という声もあがりました。

スタッフの声

きれいな作品を作るのはやっぱり容易じゃないけれど、お母さんたちはもう次に作りたい作品をイメージしていました。

参加者の声

今日は針で縫う部分は少なかったけれど、アイロンで着地を型紙に貼る作業は初めてで時間もかかった。けれど、しくみが分かったので応用して違う物も作りたい。

講師：木戸 三智子 先生

いいたて村 裁縫教室

今日もおやついっぱい





いいたて村 裁縫教室

和製本づくり

2018年2月26日(月) 御倉邸

今年度、最後となる裁縫科です。今回は手を器用に使って作る和製本作りです。背表紙には、お家で眠っていた着物を再利用し一冊ずつ手作業で張りつけしました。裁縫と違った工程に少し戸惑いながらも隣の方とこっち持って、「ここはどうするの？」など、互いに助け合いながらの作業になりました。最後は、和紙を使って飾り付け。途中の行程ではみ出てしまった接着剤の跡も、これできれいにカバーできます。着物のカバーだけでも華やかですが、和紙をちょっと加えることで、それぞれの個性も加わり一層素敵な仕上がりになりました。

スタッフの声

和紙で彩りを加えていく作業は、お母さん方、本領発揮！
大胆な絵柄に話や笑顔が尽きませんでした。

参加者の声

ワイワイ話しながらの作業であつという間に時間が過ぎました。布地と和紙を工夫して貼ると、とても華やかで面白い。余った和紙をもらってお家でも続きをやってみます。

いいたて村 裁縫教室

▼いいたて村文化祭



▲村内産のトルコ桔梗をブーケにし 皆さんにプレゼント

いいたて村 裁縫教室



ファッションショー
いいたて村文化祭

2017年10月28日(日)

今日は村の文化祭。お母さんたちが制作した作品を見てもらうせっかくの機会に、ただ飾るだけじゃつまらない! ということで、ファッションショーでお披露目です。この日のために作ってきた洋服やバックを見にまとい、いざランウェイへ。エスコートは福島大学の学生たち。最初は「恥ずかしいわ〜」なんて言いつつ、いざ衣装を見にまといステージに立つと少女のように元気に会場を練り歩きました。昨年6年ぶりに村内で開催する文化祭は、2日間で1100名を超える方々が村内から集い、とても賑やかな時間となりました。



▼大正～昭和初期のメリンス生地の肌掛け作品も展示



協力: 福島大学 (大黒ゼミ)

いいたて村 裁縫教室





いいたて村裁縫教室

